

2025年度三重大学「学生海外チャレンジ応援事業」報告書

計画タイトル※申請書と同じタイトルを記載すること	採択コース
台湾における大型褐藻類の生態理解とその保全	Aコース

学生情報	
氏名	薩摩林真和
所属学部・研究科	生物資源学部生物圏生命化学科
学年(出発時)	4

渡航先情報	
渡航先	台湾
渡航先滞在期間	2026.03.03-17
訪問先機関等	晋一化工股份有限公司
訪問先機関での身分	インターンシップ生

渡航概要と内容
<p>研究テーマである大型褐藻類の生理生態理解や、その保全、利活用方法を学ぶことを目的としました。台湾は、日本と同様に海洋国です。台湾に生育している海藻種の多くが、日本の黒潮の影響を受ける海岸に生育しているだけでなく、日本にはない海藻種も豊富に生息しており、台湾での研究を知ることで、日本の生育種に対する研究にも生かせると考えられます。台湾では、近年、薬理機能や健康食材の有用性が注目され、その研究成果は国内にとどまらず、海外にも輸出されるなど、活発な研究が行われています。</p> <p>滞在先は、海藻の含有成分に着目し、美容製品やゲル材の開発を行っている、晋一化工股份有限公司でのインターンシップ、藻類学の研究者が多く在籍している中原大学、台湾海洋大学での研究室見学及び授業参加、晋一化工が扱っている海藻の採取地である澎湖島での加工場・養殖場見学を行いました。</p> <p>晋一では澎湖島で採取された褐藻の成分分析試験、分析に関する定例報告・指導会参加、開発段階での材料の新規開拓方法や晋一の企業理念に基づいた研究室指針の説明会に参加をしました。</p> <p>中原大学では研究室訪問、工学部の材料科学の授業見学、晋一との共同研究に関わっている学生さんとの交流会、海洋大学では屋外養殖場を設けている研究室訪問をしました。</p> <p>澎湖島ではヒトエグサの加工場、藻場見学、科技大学と種苗養殖場見学をしました。</p>

渡航により達成できたこと
<p>企業内での会話においては積極性が求められ、実験においては海藻に関する知識や広い視野、社員の方との関わりが重要です。これらは、三重大学が重視する「感じる力、考える力、コミュニケーション力、生きる力」全てに関わると考えられ、滞在中にそれらの力を着実に付けていけたと考えています。</p> <p>大学と企業という同じ研究機関であっても、着眼点や他分野との関わり方には大きな違いがあります。その違いを理解したうえで、自分の研究にどのように生かせるかまで考えられたことで、これまでに得てきた知識や経験が確かなものであったと実感する機会になりました。</p> <p>また、台湾の大学生と関わる機会があり、大学生活の様子や将来の話をすることができました。自分の価値観や感覚が当たり前ではないことを再確認するとともに、異なる文化について楽しみながら互いに理解しあうことができました。連絡先を交換することもでき、今後も関係性を続けていきたいと思っています。</p>

渡航を通じて感じたこと・学んだこと

今回の渡航を通じて、研究は専門知識の深化だけでなく、多様な視点や他者との関わりの中で発展していくものであると実感しました。台湾では、日本とは異なる海藻資源の利用や研究の進め方が見られ、地域や文化による価値観の違いを学びました。この経験から、自身の研究を客観的に捉え直す視点の重要性を認識しました。

また、大学と企業の連携により、研究が社会へとつながる過程を理解し、研究の目的意識がより明確になりました。さらに、現地の学生や研究者との交流を通じて、価値観の違いを受け入れる重要性を実感するとともに、英語での専門的なやり取りから語学力向上の必要性を強く感じました。

加えて、渡航準備から報告までの過程で、自身の経験を言語化する力や主体的に行動する力が養われました。

本渡航は広い視野と柔軟な思考力を身につける貴重な機会であったと考えています。

今回の経験を今後の学修及びキャリアパスの中でどのように活かしていくか

所属している海洋食糧化学研究室では、褐藻類の発生や養殖など個体を育成する研究だけでなく、様々な研究が行われています。そのため、今回の経験をゼミで報告を行うことで、異なるテーマで研究を行っている学生に対し、海藻に関する幅広い知識を共有できるのではないかと考えています。また、今回の報告が、異なるテーマで研究をしている学生同士の情報交換の活発化につながることで、今後、大学内での研究もますます精力的に取り組めるのではないかと考えています。

また、将来は農業高校の教員を目指していることから、今回、様々な価値観や感覚を持つ人と関わり、互いに理解し合う経験ができたことで、自信になりました。英語力に関しては、滞在した企業や大学では、英語が流ちょうな方が多く、専門性の高い話を英語でできたことに大きな喜びを感じたため、これからも継続的に学び続けようと決意することができました。

この事業での渡航を考えている学生へのアドバイス

海外に行ったことある学生も行ったことない学生も大きく変わるチャンスになると思います。渡航期間中はもちろんですが、申請書を書くにあたり、自分が今までにやってきたことや、今後なりたい姿、そのために必要な知識や経験を言語化することで、これまでの学びの振り返りにつながることも、将来を考える機会になると思います。

また、計画を立て、先方から受け入れ許可をいただき、渡航中は計画に沿って行動する必要があるため、主体的に行動するとともに、新しい価値観や文化にも適応することが求められます。私は、まったく新しい環境に飛び込んだことで、今まで気がつかなかった自分の考えや得意・不得意に気付くことができました。同時に好きなものも増え、日本に戻ってきてからも充実しています。海外は、日本よりオープンな人が多く、新しいことに挑戦しやすい環境だと感じたので、ぜひこれまでやったことのないことにも挑戦してみてください。また、それに伴って英語でのコミュニケーションが必須となるため、語学力の向上にもつながると思います。

計画全体にかかった費用(自己負担分も含めて、日本円で記載すること。)

渡航費(往復)	79,000円
海外旅行保険	8,400円
学費(教科書代や大学等プログラム授業料等)	35,000円
宿泊費	81,000円
光熱費	
食費	30,000円
その他	30,000円
合計	263,400円